

週間火山概況 (平成 26 年 10 月 24 日～10 月 30 日)

【火山現象に関する警報等の発表状況】

24日、霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）に火口周辺警報を発表し、平常から火口周辺危険へ引き上げました。その他の火山については、噴火に関する予報警報事項（警戒が必要な事項）に変更はありません。

表 1 火山現象に関する警報等の発表履歴（平成 26 年 10 月 24 日～10 月 30 日）

発表日時	火山名	特別警報・警報・予報	概要
24 日 10 時 00 分	霧島山 (えびの高原 (硫黄山)周辺)	火口周辺警報	火口周辺危険へ引き上げ
24 日 12 時 25 分	桜島	降灰予報	噴火に伴う降灰地域予想
毎日 07 時、17 時	三宅島	火山ガス予報	島内の火山ガスの分布予想

表 2 10 月 30 日現在の火山現象に関する警報等の発表状況

特別警報・警報・予報	噴火警戒レベル及びキーワード	該当火山
火口周辺警報	レベル 3 (入山規制) 入山危険	御嶽山、桜島、口永良部島 西之島
	レベル 2 (火口周辺規制) 火口周辺危険	草津白根山、三宅島、阿蘇山、霧島山(新燃岳)、諏訪之瀬島 硫黄島、霧島山(えびの高原(硫黄山)周辺)
	噴火警報(周辺海域) 周辺海域警戒	福德岡ノ場
噴火予報	レベル 1 (平常)	雌阿寒岳、十勝岳、樽前山、有珠山、北海道駒ヶ岳、秋田焼山、岩手山、秋田駒ヶ岳、吾妻山、安達太良山、磐梯山、那須岳、浅間山、新潟焼山、焼岳、富士山、箱根山、伊豆東部火山群、伊豆大島、九重山、雲仙岳、霧島山(御鉢)、薩摩硫黄島
	平常	上記以外の活火山

印のついた火山は火山現象に関する海上警報も発表中。



図 1 火山現象に関する警報を発表中の火山（10 月 30 日現在）

【警報発表中の火山の活動状況及び警報事項】

くまつしらねさん

草津白根山 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

3月上旬から湯釜付近及びその南側を震源とする火山性地震が増加し、消長を繰り返しながら多い状態が継続していましたが、8月20日以降は少ない状態で経過しています（図2）。火山性微動の発生はなく、遠望カメラによる噴気などの状況等、その他の観測データにも特段の変化はみられません。

GNSS¹⁾観測によると、湯釜付近の膨張を示す変動が引き続きみられています。全磁力観測によると、5月以降の湯釜近傍地下の温度上昇を示す変化は、7月以降は停滞しています。

今後、小規模な噴火が発生する可能性があることから、湯釜火口から概ね1kmの範囲では噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。また、ところどころで火山ガスの噴出が見られ、周辺のくぼ地や谷地形などでは滞留した火山ガスが高濃度になることがありますので、注意してください。

（図）

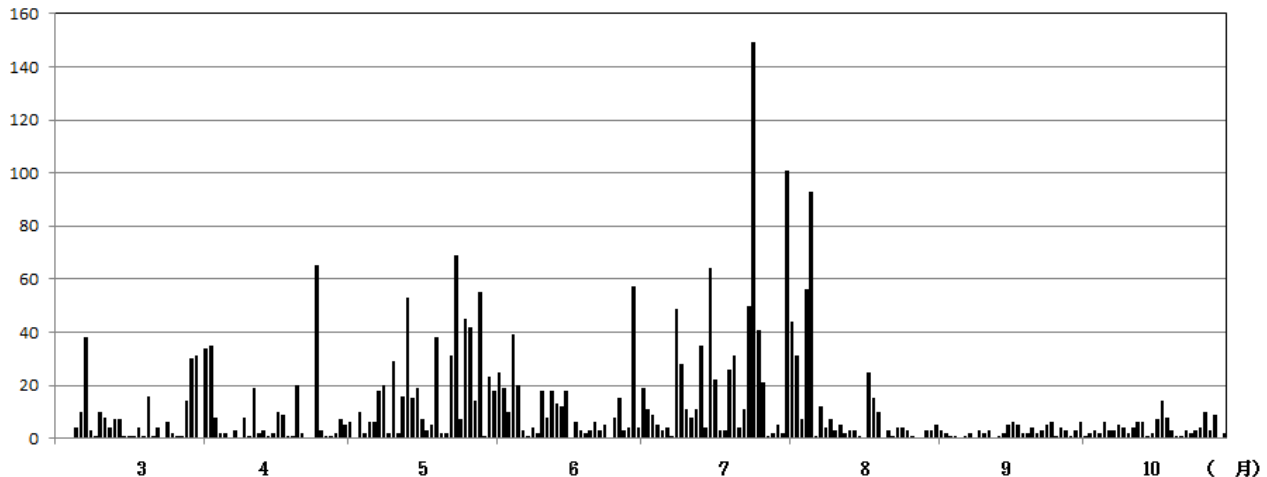


図2 草津白根山 火山性地震の日別回数（3月1日～10月30日）

おんたけさん

御嶽山 [火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）]

火山活動には低下傾向がみられるものの、火口列からの噴煙活動や地震活動が続いています。火山性微動は、10月7日以降は観測されていません。火山性地震は噴火発生直後に比べ減少しており、少ない状態で経過しました。

山頂火口からの噴煙は、白色で火口縁上100～300mで経過しました。24日、25日及び30日に実施した火山ガス観測では、二酸化硫黄の放出量は1日あたり約200トン（速報値）とやや少ない状態で推移しています。

御嶽山では、今後も小規模な噴火が発生する可能性があります。また、噴気活動や地震活動等が活発化する場合には、火口周辺に大きな噴石を飛散させ、火砕流を伴うような噴火となる可能性があります。

火口から4km程度の範囲では大きな噴石²⁾の飛散や火砕流に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。また、降雨時には土石流の可能性がありますので注意してください。

みやけしま

三宅島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

噴煙は、白色で火口縁上200m以下で経過しました。

火山性地震は、少ない状態で経過しました。

三宅村によると、山麓ではまれにやや高濃度の二酸化硫黄が観測されています。

山頂火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、山頂火口周辺（雄山環状線内側）では噴火に警戒してください。また、火山ガス予報で火山ガスの濃度が高くなる可能性があるとして予想される地域では、火山ガスに警戒してください。

にしおしま

西之島 [火口周辺警報（入山危険）及び火山現象に関する海上警報]

海上自衛隊によると、活発な噴火活動が続きました。

西之島では、今後も噴火が続くおそれがありますので、西之島の中心から概ね6km以内の範囲では噴火に警戒してください。また、周辺海域では浮遊物に注意してください。

いおうとう

硫黄島 [火口周辺警報（火口周辺危険）及び火山現象に関する海上警報]

火山性地震はやや少ない状態で経過しました。火山性微動は観測されていません。

GNSS¹⁾観測によると、地殻変動は2月下旬頃から隆起の傾向がみられています。

硫黄島の島内は全体に地温が高く、多くの噴気地帯や噴気孔があり、過去には各所で小規模な噴火が発生しています。このことから火山活動はやや活発な状態で推移しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、従来から小規模な噴火が発生している地点（ミリオンダラーホール（旧噴火口）等）及びその周辺では噴火に警戒してください。

ふくとくあかのぼ

福德岡ノ場 [噴火警報（周辺海域警戒）及び火山現象に関する海上警報]

海上保安庁海洋情報部、第三管区海上保安本部、海上自衛隊及び気象庁による上空からの観測は行われませんでした。これまでのこれら機関の観測によると、福德岡ノ場付近の海面には長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されており、今後も小規模な海底噴火が発生すると予想されますので、周辺海域では噴火に警戒してください。

あそさん

阿蘇山 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

阿蘇山ではやや活発な火山活動が続いています。23日の朝、火口カメラ（阿蘇火山博物館設置）に火山灰が付着しており、24日に実施した現地調査では、中岳第一火口周辺で降灰が認められました。22日夜遅くから23日未明（期間外）にかけて周期の短い火山性微動が発生していたことから、この期間にごく小規模な噴火が発生したと考えられます。

火山性地震及び孤立型微動³⁾は多い状態で経過しています（図3）。火山性微動の振幅も21日以降、大きい状態が続いています（図4）。

27日及び29日に現地調査を実施しました。中岳第一火口の火口中央部噴気孔の温度は約600と高い状態が継続していました。また、南側火口壁付近の温度も高い状態が継続していました。

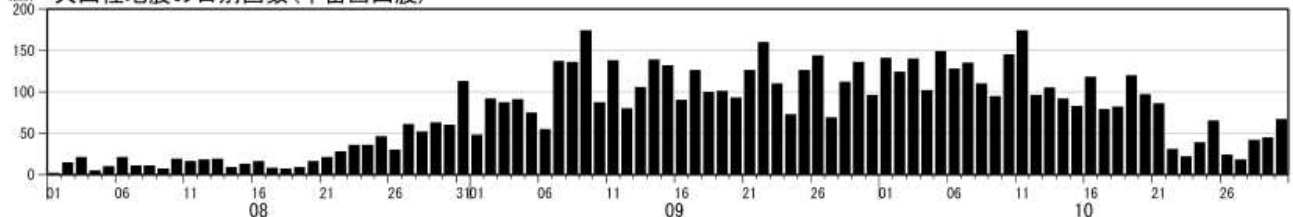
二酸化硫黄の放出量は1日あたり2,600トン（前回21日1,300トン）と多い状態でした。

中岳第一火口では、夜間に遠望カメラ（高感度カメラ）で確認できる程度の火映を、火口カメラ（阿蘇火山博物館設置）で夜間に火口内で火炎⁴⁾を期間を通して観測しました。

地殻変動観測では、特段の変化は認められません。

中岳第一火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石²⁾に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石²⁾が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

(回) 火山性地震の日別回数(中岳西山腹)



(回) 孤立型微動の日別回数(中岳西山腹)

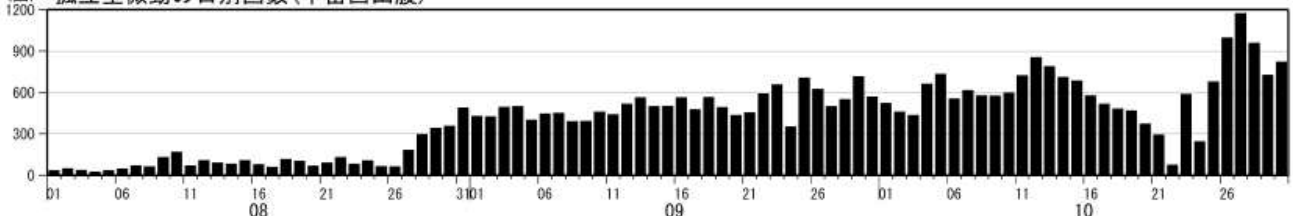


図3 阿蘇山 火山性地震及び孤立型微動の日別回数（2014年8月1日～10月30日）

火山性微動の振幅が時々大きくなっており、みかけ上火山性地震及び孤立型微動の回数が少なく計数されている日があります。火山性地震及び孤立型微動は多い状態で経過しているものと推定しています。

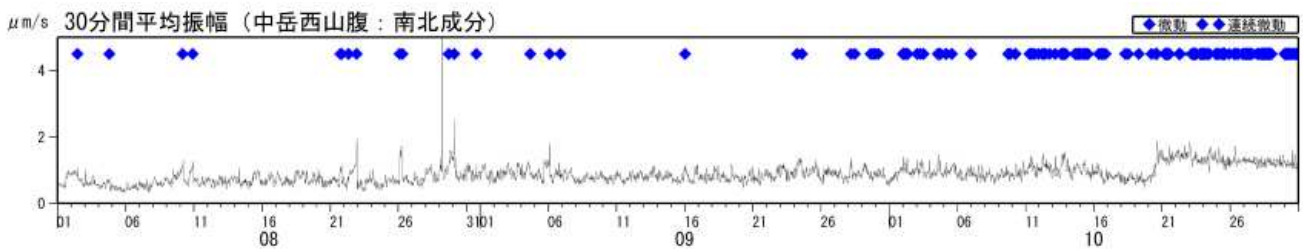


図4 阿蘇山 火山性微動の30分間平均振幅(2014年8月1日~10月30日)

霧島山(新燃岳) [火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]

新燃岳では、噴火は発生しませんでした。
 火山性地震は少ない状態で経過し、火山性微動は発生していません。
 傾斜計⁵⁾では、火山活動に伴う特段の変化は認められません。
 GNSS¹⁾連続観測によると、新燃岳の北西数 km (えびの高原付近) の地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張を示す地殻変動は、2011年12月以降鈍化・停滞していましたが、2013年12月頃から伸びの傾向がみられます。
 新燃岳火口から概ね1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石²⁾に警戒してください。噴火時には、風下側で火山灰だけでなく小さな噴石²⁾(火山れき⁶⁾) が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。降雨時には、泥流や土石流に注意してください。

霧島山(えびの高原(硫黄山)周辺) [火口周辺警報(火口周辺危険)] 24日に火口周辺警報(火口周辺危険)に引き上げ

えびの高原(硫黄山)周辺では、小規模な噴火が発生する可能性があることから、霧島山のえびの高原(硫黄山)周辺に、24日10時00分、火口周辺警報(火口周辺危険)を発表しました。
 火山性地震が時々発生しました(図5)。火山性微動は観測されていません。
 25日から28日に実施した現地調査では、硫黄山周辺に地熱域の異常はなく、噴気等は観測されていません。
 えびの高原の硫黄山から概ね1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石²⁾に警戒して下さい。
 風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石²⁾に注意してください。

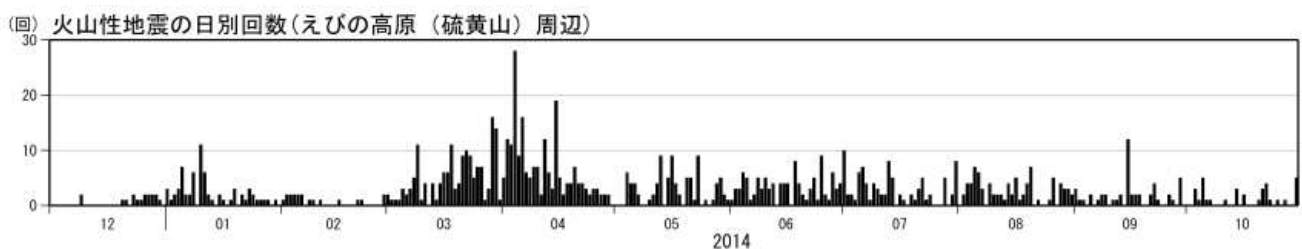


図5 霧島山(えびの高原(硫黄山)周辺) 火山性地震の日別回数(2013年12月1日~2014年10月30日)

桜島 [火口周辺警報(噴火警戒レベル3、入山規制)]

桜島では、活発な噴火活動が続きました。
 昭和火口では、爆発的噴火が2回発生し、多量の噴煙が火口縁上3,200mまで上がり、弾道を描いて飛散する大きな噴石²⁾が4合目(昭和火口より800~1,300m)まで達しました。また、同火口では、24日に夜間に高感度カメラ⁷⁾で明瞭に見える火映を観測しました。
 南岳山頂火口では、噴火は発生していません。
 桜島島内の傾斜計⁵⁾では、2014年1月頃から山体が隆起する傾向がみられていましたが、7月中旬頃から山体が沈降する傾向となっています。
 GNSS¹⁾連続観測では、桜島島内の基線で、2014年1月頃から伸びの傾向がみられていましたが、7月頃から停滞しています。始良カルデラ(鹿児島湾奥部)の膨張を示す伸びの傾向は、2013年6月頃から停滞していますが、長期的には膨張が進行してきており、引き続き活発な噴火活動が継続すると考えられますので、火山活動の推移に注意してください。
 昭和火口及び南岳山頂火口から概ね2 kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石²⁾及

び火砕流に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石²⁾(火山れき⁶⁾)が遠方まで風に流されて降るため注意してください。爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。また、降雨時には土石流に注意してください。

くちのえらぶしま 口永良部島 [火口周辺警報(噴火警戒レベル3、入山規制)]

口永良部島では、火山活動の高まった状態が継続しています。

噴火は発生しませんでした。新岳火口からの噴煙量は噴火前に比べて多い状態で、白色の噴煙が最高で火口縁上200mまで上がりました。二酸化硫黄の放出量も、噴火前に比べて多い状態が続いているものと推定されます。

火山性地震及び火山性微動は観測されていません。

噴煙活動等は継続しており、今後も8月3日と同程度の噴火が発生する可能性がありますので、新岳火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石²⁾に警戒してください。向江浜地区から新岳の南西にかけて、火口から海岸までの範囲では火砕流に警戒してください。風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石²⁾が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。降雨時には土石流の可能性があるので注意してください。

すわのせじま 諏訪之瀬島 [火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]

諏訪之瀬島では、御岳火口で30日11時15分に、ごく小規模な噴火が発生しました。噴火により灰白色の噴煙が火口縁上300mまで上がり、それ以上は雲のため不明でした。

火山性地震はやや多い状態で経過し、火山性微動を時々観測しました。

また、同火口では期間を通して夜間に高感度カメラで火映を観測しました。

今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石²⁾に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石²⁾が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

【噴火予報発表中の火山の活動状況及び予報事項】

ざおうざん 蔵王山 [噴火予報(平常)]

火山性地震は少ない状況で経過し、火山性微動は発生していません。

蔵王山では、2013年1月以降地震活動の高まりがみられており、過去の活動期には突発的な噴気孔の生成、火山ガスや泥の噴出等の現象もありましたので、観光や登山で火口に近づく際には十分に注意してください。

いずあおしま 伊豆大島 [噴火予報(噴火警戒レベル1、平常)]

24日及び29日から30日にかけて、主に島の西部を震源とする火山性地震が一時的に増加しました(図6)。29日には島内で震度2を2回、30日には島内で震度1を2回観測しています。火山性地震が増加したのは、7月下旬の島北部の活動以来です。

火山性微動の発生はなく、遠望カメラによる噴気などの状況等、その他の観測データにも特段の変化はみられていません。

GNSS¹⁾による観測では、地下深部のマグマの供給によると考えられる島全体の長期的な膨張傾向が続いていますので、今後の火山活動に注意してください。

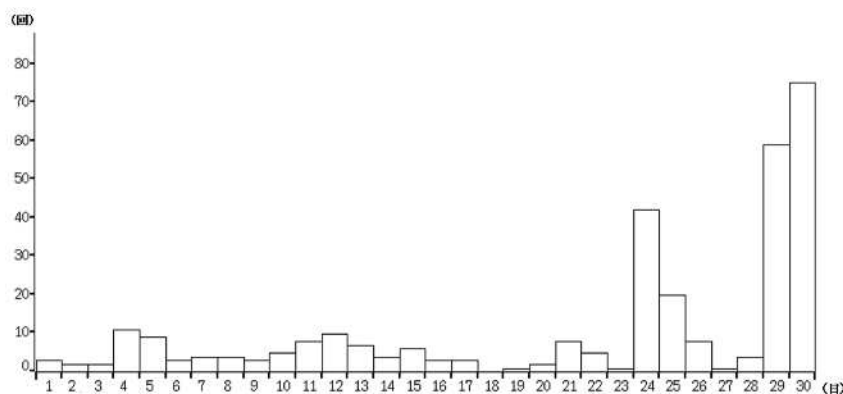


図6 伊豆大島 火山性地震の日別回数(10月1日~10月30日)

上記以外の火山では、期間中、火山活動に特段の変化はなく、予報事項に変更はありません。

- 1) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。
- 2) 噴石については、その大きさによる風の影響の程度の違いによって到達範囲が大きく異なります。本文中「大きな噴石」とは「風の影響を受けず弾道を描いて飛散する大きな噴石」のことであり、「小さな噴石」とはそれより小さく「風に流されて降る小さな噴石」のことであります。
- 3) 阿蘇山特有の微動で、火口直下のごく浅い場所で発生しており、周期 0.5~1.0 秒、継続時間 10 秒程度で振幅が 5 $\mu\text{m/s}$ 以上のものを孤立型微動としています。
- 4) 高温の噴出物が炎のように見える現象。
- 5) 火山活動による山体の傾きを精密に観測する機器。火山体直下へのマグマの貫入等により変化が観測されることがあります。
- 6) 霧島山・桜島では「火山れき」の用語が地元で定着していると考えられることから、付加表現しています。
- 7) 九州地方整備局大隅河川国道事務所が黒神河原上流に設置したカメラ等によります。

注) 本資料は速報的な内容を含みます。データについては精査により、後日修正することがあります。詳細については、毎月発表の火山活動解説資料を参照してください。

http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.htm

【参考】 噴火警報・予報と噴火警戒レベル等の対応表

噴火警戒レベル対象火山		噴火警戒レベル対象外の火山
噴火警戒レベル(キーワード)	警報・予報	警戒事項等(キーワード)
レベル5(避難)	噴火警報	居住地域嚴重警戒
レベル4(避難準備)	火口周辺警報	入山危険
レベル3(入山規制)	噴火予報	火口周辺危険
レベル2(火口周辺規制)		平常
レベル1(平常)		

海底火山については、噴火警報(周辺海域)(キーワード:周辺海域警戒)と噴火予報(キーワード:平常)で発表します。印のついた噴火警報は、特別警報に位置づけられています。